(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2010-218480
(P2010-218480A)
(43)公開日　平成22年9月30日(2010.9.30)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
G06F 13/00	(2006.01)	G06F	13/00	540P	5B084
G06Q 30/00	(2006.01)	G06F	17/60	326	5C164
H04N 7/173	(2006.01)	H04N	7/173	630	

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 13 頁）

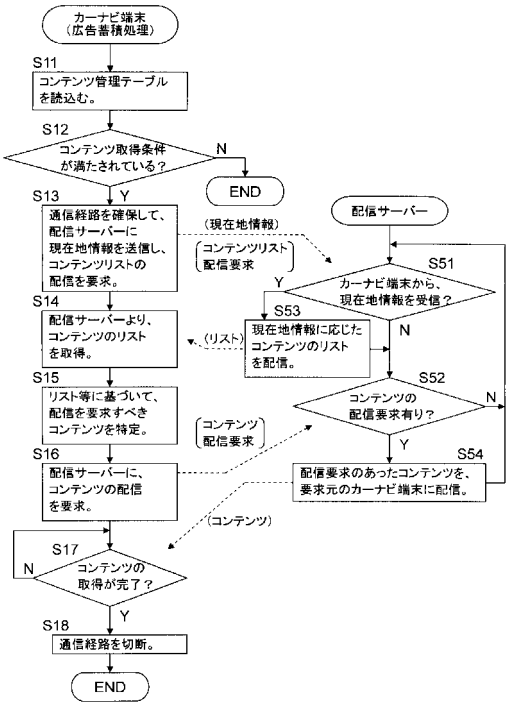
(21)出願番号　特願2009-67292(P2009-67292)
(22)出願日　平成21年3月19日(2009.3.19)

(71)出願人　000001889
三洋電機株式会社
大阪府守口市京阪本通２丁目５番５号
(74)代理人　100085501
弁理士　佐野　静夫
(74)代理人　100128842
弁理士　井上　温
(74)代理人　100141092
弁理士　山本　英生
(72)発明者　渡邊　雅英
大阪府守口市京阪本通２丁目５番５号　三洋電機株式会社内

Ｆターム(参考)　5B084 AA12 BA02 CB13
5C164 FA25 MA05P SC11S UA04S UB10P
UB39S UD41S YA04 YA30

(54)【発明の名称】コンテンツ再生システム

(57)【要約】
【課題】広告主とユーザの双方にとって、より好ましい態様で動作するコンテンツ再生システムを提供する。
【解決手段】広告コンテンツを配信する配信サーバーと、配信された広告コンテンツを取得して再生する、１個または複数個の再生装置と、を備え、該再生装置においては、以前に取得されたことのある広告コンテンツが、取得対象から除外されるコンテンツ再生システムとする。
【選択図】図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
広告コンテンツを配信する配信サーバーと、
配信された広告コンテンツを取得して再生する、１個または複数個の再生装置と、
を備え、
該再生装置においては、
以前に取得されたことのある広告コンテンツが、取得対象から除外されることを特徴とするコンテンツ再生システム。
【請求項２】
前記再生装置は、
車に搭載されて使用されるものであって、該車において、エンジンの始動または走行の停止がなされたときに、前記広告コンテンツを再生するものであり、
走行の停止がなされたことによって前記広告コンテンツが再生される場合、再生の途中停止の指示を受付け、
エンジンの始動によって前記広告コンテンツが再生される場合、少なくとも１個の広告コンテンツの再生については、再生の途中停止の指示を受付けないことを特徴とする請求項１に記載のコンテンツ再生システム。
【請求項３】
前記再生装置においては、
取得されている前記広告コンテンツの数が、所定の上限値に達していないときに、配信された広告コンテンツが取得されるものであり、
該再生装置は、
取得されている広告コンテンツのうち、再生回数が所定値に達したものについては、削除することを特徴とする請求項２に記載のコンテンツ再生システム。
【請求項４】
前記再生装置においては、
取得されている前記広告コンテンツの数が、所定の上限値に達していないときに、配信された広告コンテンツが取得されるものであり、
前記広告コンテンツの各々には、地域を特定する地域情報が付随されており、
前記再生装置は、
自機の現在地を検出するとともに、
取得されている広告コンテンツのうち、付随している地域情報に現在地が属さないものについては、削除することを特徴とする請求項２に記載のコンテンツ再生システム。
【請求項５】
前記広告コンテンツの取得に関して、
前記配信サーバーが、配信可能な広告コンテンツのリストを、前記再生装置に送信する第１ステップ、
前記再生装置が、該リストに挙げられており、かつ、以前に取得されたことのない広告コンテンツを識別させる識別情報を作成し、前記配信サーバーに送信する第２ステップ、および、
前記配信サーバーが、該識別情報によって識別される広告コンテンツを、前記再生装置に送信する第３ステップ、
を含む動作が実行されることを特徴とする、請求項１から請求項４の何れかに記載のコンテンツ再生システム。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、広告コンテンツを再生させる、コンテンツ再生システムに関する。
【背景技術】
【０００２】

従来、広告情報などのコンテンツを取得して再生するシステムが、種々提案されている。例えば特許文献１には、ＡＶコンテンツを再生するコンテンツ再生端末が開示されている。また特許文献２や特許文献３には、車輌向けのコンテンツ提供システムが開示されている。

【０００３】

このようなシステムによれば、再生端末の利用者にとっては、コンテンツに係る情報を容易に入手することが可能となる。また、広告主（商品を販売する企業など）にとっては、例えば商品の宣伝に関する広告コンテンツを提供することにより、商品の販売促進を図ることが可能である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】特開２００７－６０３９０

【特許文献２】特開２００５－５１７３１

【特許文献３】特開２００４－１７１０８５

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

ところで、広告コンテンツの再生を行うコンテンツ再生システムを利用すれば、電子機器（例えば、カーナビ端末）に広告コンテンツの再生機能を付加したもの（再生装置）を、無料もしくは廉価で販売することが可能である。すなわち、配信サーバーから配信される広告コンテンツが、再生装置において適宜再生されるようにする代わりに、再生装置の対価の全部または一部に、広告料が割り当てられる。これにより再生装置が安価となり、再生装置の普及を促進させることが可能となる。

【０００６】

コンテンツ再生システムがこのような態様で利用される場合、広告主にとっては、広告の効果を上げるため、広告コンテンツを極力多く再生させたいと考えるのが通常である。一方、再生装置の利用者（ユーザ）にとっては、再生装置本来の機能（カーナビ端末であれば、道路案内機能）が支障なく利用できることが重要である。

【０００７】

また再生装置において、以前に取得されたことのある広告コンテンツが再度取得されたり、同じ広告コンテンツが必要以上に繰り返し再生されたりすると、他種の広告コンテンツの取得や再生が妨害されやすくなる。その結果、広告主にとっては、用意されている種々の広告コンテンツを、満遍なくユーザに視聴してもらうことが難しくなるため、好ましいとはいえない。またユーザにとっても、広告の情報を幅広く入手することが難しくなるため、好ましいとはいえない。

【０００８】

本発明は、上述した問題点に鑑み、広告主とユーザの双方にとって、より好ましい態様で動作するコンテンツ再生システムの提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００９】

上記目的を達成するため、本発明に係るコンテンツ再生システムは、広告コンテンツを配信する配信サーバーと、配信された広告コンテンツを取得して再生する、１個または複数個の再生装置と、を備え、該再生装置においては、以前に取得されたことのある広告コンテンツが、取得対象から除外される構成とする。

【００１０】

本構成によれば、以前に取得されたことのある広告コンテンツについては、再生装置における取得対象から除外される。そのため、他種の広告コンテンツの取得や再生が妨害されにくくなり、広告主とユーザの双方にとって、より好ましいシステムとすることが可能となる。なおここでの「広告コンテンツ」は、全体または一部に、何らかの広告（例えば

商品宣伝のための広告）の要素を含むコンテンツ（例えば画像や音声を表す情報）のことであり、広告の具体的な内容や態様は問わない。

【００１１】

また上記構成において、前記再生装置は、車に搭載されて使用されるものであって、該車において、エンジンの始動または走行の停止がなされたときに、前記広告コンテンツを再生するものであり、走行の停止がなされたことによって前記広告コンテンツが再生される場合、再生の途中停止の指示を受付け、エンジンの始動によって前記広告コンテンツが再生される場合、少なくとも１個の広告コンテンツの再生については、再生の途中停止の指示を受付けない構成としてもよい。

【００１２】

本構成によれば、確実に（再生停止の指示の有無に関わらず）広告コンテンツを再生させたいという広告主側の要望と、状況によっては広告コンテンツの再生を停止させたいというユーザ側の要望を、極力満足させることが可能となる。

【００１３】

また上記構成において、前記再生装置においては、取得されている前記広告コンテンツの数が、所定の上限値に達していないときに、配信された広告コンテンツが取得されるものであり、該再生装置は、取得されている広告コンテンツのうち、再生回数が所定値に達したものについては、削除する構成としてもよい。

【００１４】

本構成によれば、比較的重要度が低い（既に十分に再生されたため、更に再生する価値は低い）と見込まれる広告コンテンツを削除し、広告コンテンツの格納スペースを極力確保することが可能となる。

【００１５】

また上記構成において、前記再生装置においては、取得されている前記広告コンテンツの数が、所定の上限値に達していないときに、配信された広告コンテンツが取得されるものであり、前記広告コンテンツの各々には、地域を特定する地域情報が付随されており、前記再生装置は、自機の現在地を検出するとともに、取得されている広告コンテンツのうち、付随している地域情報に現在地が属さないものについては、削除する構成としてもよい。

【００１６】

本構成によれば、比較的重要度が低い（ユーザにとっての利用価値が低い）と見込まれる広告コンテンツを削除し、広告コンテンツの格納スペースを極力確保することが可能となる。

【００１７】

また上記構成としてより具体的には、前記広告コンテンツの取得に関して、前記配信サーバーが、配信可能な広告コンテンツのリストを、前記再生装置に送信する第１ステップ、前記再生装置が、該リストに挙げられており、かつ、以前に取得されたことのない広告コンテンツを識別させる識別情報を作成し、前記配信サーバーに送信する第２ステップ、および、前記配信サーバーが、該識別情報によって識別される広告コンテンツを、前記再生装置に送信する第３ステップ、を含む動作が実行される構成としてもよい。本構成によれば、以前に再生装置によって取得されたことのある広告コンテンツを、取得対象から除外することが容易である。

【発明の効果】

【００１８】

上述した通り、本発明に係るコンテンツ再生システムによれば、以前に取得されたことのある広告コンテンツについては、再生装置における取得対象から除外される。そのため、他種の広告コンテンツの取得や再生が妨害されにくくなり、広告主とユーザの双方にとって、より好ましいシステムとすることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【００１９】

【図１】本発明の実施形態に係るコンテンツ再生システムの構成図である。
【図２】本発明の実施形態に係るカーナビゲーション端末の構成図である。
【図３】コンテンツ管理テーブルに関する説明図である。
【図４】当該カーナビゲーション端末における、全体的な動作の流れ図である。
【図５】広告蓄積処理に関する流れ図である。
【図６】起動時再生処理に関する流れ図である。
【図７】通常再生処理に関する流れ図である。
【発明を実施するための形態】
【００２０】
本発明の実施形態について、カーナビゲーション端末（本願では、「カーナビ端末」と略記する場合がある）を有するコンテンツ再生システムを例に挙げて、以下に説明する。
【００２１】
図１は、当該コンテンツ再生システムの概略的な構成図である。本図に示すように、コンテンツ再生システム９は、配信サーバー１、アクセスポイント２、およびカーナビ端末３などを有している。
【００２２】
配信サーバー１は、種々の広告コンテンツ（例えば、商品の宣伝広告の内容を表す情報であり、広告主から随時提供されるもの）などを記憶する記憶装置、アクセスポイント２を経由してカーナビ端末３との通信を実行する通信装置、配信サーバー１において必要な演算や制御を実行する演算制御装置などを有している。
【００２３】
なお、記憶装置に記録されている（つまり配信可能な）広告コンテンツの各々には、どの地域（例えば都道府県）で配信されるべきかを示す地域情報も付随されている。例えば、大阪府内で配信されるべき（或いは、配信が望まれる）広告コンテンツには、予め広告主によって、「大阪府」という内容の地域情報が付随されることになる。
【００２４】
アクセスポイント２は、例えばＷｉＦｉ規格のアクセスポイントとして１個または複数個が設けられており、それぞれがインターネットを介して配信サーバー１に接続されている。またアクセスポイント２は、駐車場、信号機、およびガソリンスタンドなどといった、車が停止或いは低速で走行する場所に好適に設置され、ホットスポット内に進入したカーナビ端末３との無線通信を行う。これにより、当該カーナビ端末３は、配信サーバー１に接続可能となる。
【００２５】
カーナビ端末３は、従来のカーナビゲーション機能（ＧＰＳを利用して現在地を把握するとともに、地図情報を用いて、現在地から目的地までの経路を案内するもの）を有するとともに、広告コンテンツの蓄積（取得）や再生を行う機能も付加された電子機器であり、車に搭載されて使用される。ここでカーナビ端末３のより詳細な構成について、図２を参照しながら説明する。
【００２６】
図２に示すように、カーナビ端末３は、通信部３１、制御部３２、カーナビ処理部３３、広告蓄積部３４、広告再生部３５、出力部３６、および記憶部（ストレージ）３７などを備えている。通信部３１は、アクセスポイント２を介して、配信サーバー１との情報の送受信を実行する機能部である。
【００２７】
制御部３２は、例えばＣＰＵ等によって形成されており、カーナビ端末３における各部の制御を行う機能部である。また制御部３２は、例えば、ＧＰＳ信号に基づいた現在地の情報、或いは、カーナビ端末３が搭載されている車（以下、単に「車」と称する）の速度情報などに基づいて、当該車が停止したことを検出する機能を備えている。また制御部３２は、例えば、設置されているボタンスイッチの押下状態を監視することにより、ユーザの指示を受付ける機能も備えている。更に制御部３２は、例えば所定周波数帯域の電波強

度を監視することにより、車がアクセスポイント２のホットスポット内に進入したかを検出する機能も備えている。

【００２８】

カーナビ処理部３３は、ＧＰＳ信号を受信して現在地の情報を取得する機能、出力部３７に地図を表示させる機能、および、表示された地図を用いて現在地から目的地までの経路を案内する機能などを備えている。これによりカーナビ処理部３３は、制御部３２の指示に応じて、一般的なカーナビゲーション機能を発揮するための各処理を実行する。なお取得された現在地の情報は、適宜、広告蓄積部３４に伝送されるようになっている。

【００２９】

広告蓄積部３４は、制御部３２の指示に応じて、配信サーバー１から配信された種々の広告コンテンツを、記憶部３７に蓄積させる処理（後述する「広告蓄積処理」）を実行する。また広告再生部３５は、制御部３２の指示に応じて、記憶部３７に蓄積されている広告コンテンツを再生する処理（後述する「起動時再生処理」もしくは「通常再生処理」）を実行する。

【００３０】

出力部３６は、画像を表示するディスプレイや、音声を出力するスピーカを備えている。これにより出力部３６は、カーナビ処理部３３および広告再生部３５から伝送される情報に基づいて、画像や音声を出力する。

【００３１】

記憶部３７は、書換え可能である不揮発性のメモリ（例えばハードディスクやフラッシュメモリ）によって形成されており、随時取得される各広告コンテンツ、予め登録されるデフォルトコンテンツ、および広告コンテンツの管理に用いられるコンテンツ管理テーブルなどを記憶する。

【００３２】

なおコンテンツ管理テーブルには、図３に示すように、記憶部３７において最大何個の広告コンテンツ（デフォルトコンテンツは含まない）を格納できるかを示す「最大格納数」、現在何個の広告コンテンツが格納されているかを示す「現在の格納数」、および、各広告コンテンツにつき何回までの再生が許容されるかを示す「最大再生回数」の各値が記録される。これらの各値は、予め設定された値に固定されていても良く、ユーザ等によって任意に設定可能、或いは、更新可能となっていても良い。

【００３３】

またコンテンツ管理テーブルには、以前に取得されて格納された広告コンテンツを識別する情報（ここでは、「タイトル名」としている）を示す「取得済みコンテンツ」の情報も記録される。この「取得済みコンテンツ」には、現時点で記憶部３７に格納されている広告コンテンツだけでなく、既に削除されている広告コンテンツも含まれる。

【００３４】

なお、取得された広告コンテンツの各々は、「コンテンツＩＤ」（「１」～「１０」というように、最大格納数の分だけ予め用意されている）が付与されて、記憶部３７に蓄積されるようになっている。そしてコンテンツ管理テーブルには、コンテンツＩＤごとに、広告コンテンツが現時点で格納されているか否か（つまり、当該ＩＤが空いているか否か）を示す「空きフラグ」が記録される。またコンテンツ管理テーブルには、コンテンツＩＤごとに、広告コンテンツが何回再生されたかを示す「再生回数」、広告コンテンツの内容や種類を識別可能とする「タイトル名」、および広告コンテンツの保存先（例えば、ディレクトリ名やフォルダ名）を示す「コンテンツ保存先」の情報も記録される。

【００３５】

上述した構成により、カーナビ端末３は、一般的なカーナビゲーション端末としての機能を発揮するための各処理（カーナビ処理）を実行するとともに、これに並行して、広告コンテンツの蓄積や再生に関連する各処理（コンテンツ関連処理）をも実行する。ここで、コンテンツ関連処理の全体的な流れについて、図４に示すフローチャートを参照しながら、以下に説明する。

【００３６】
カーナビ端末３が起動すると（例えば、非運転時を想定した省電力モードから、通常の動作モードに移行すると）、制御部３２は、広告再生部３５に起動時再生処理を実行させる（ステップＳ１）。
【００３７】
なお、車のエンジンの始動に連動してカーナビ端末３が起動する場合、車のエンジンの始動がなされたときに、起動時再生処理が実行されることになる。また、カーナビ端末３においては、制御部３２が車のエンジンの始動を検出するようにしておき、当該検出がなされたときに、起動時再生処理が実行されるようにしても良い。
【００３８】
その後、制御部３２は、車が走行を停止（つまり、走行状態から停止状態に移行）したか（ステップＳ２）、ユーザによって広告コンテンツの再生指示がなされたか（ステップＳ３）、および、車がアクセスポイント２のホットスポット内に進入したか（つまり、カーナビ端末３と配信サーバー１との通信が可能となったか）（ステップＳ４）を監視する。
【００３９】
そして車が停止した場合（ステップＳ２のＹ）、もしくはユーザにより再生指示がなされた場合（ステップＳ３のＹ）には、制御部３２は、広告再生部３５に通常再生処理を実行させる（ステップＳ５）。ただし、既に何らかの広告コンテンツが再生中である場合には、通常再生処理の実行は省略される。その後、ステップＳ２の処理に戻る。
【００４０】
一方、車がアクセスポイント２のホットスポット内に進入した場合には（ステップＳ４のＹ）、制御部３２は、広告蓄積部３４に広告蓄積処理を実行させる（ステップＳ６）。なお、カーナビ処理または広告コンテンツの再生処理が実行中であっても、広告蓄積処理は、これに並行して実行される。その後、ステップＳ２の処理に戻る。
【００４１】
次に、「広告蓄積処理」のより詳細な内容について、図５に示すフローチャートを参照しながら、以下に説明する。
【００４２】
広告蓄積部３４は、制御部３２による広告蓄積処理の実行指示がなされたら（ステップＳ６）、記憶部３７に記録されているコンテンツ管理テーブルを読込む（ステップＳ１１）。そしてコンテンツ管理テーブルに基づいて、広告コンテンツの取得に関わる条件（コンテンツ取得条件）が満たされているかを判断する（ステップＳ１２）。なお、ここでのコンテンツ取得条件は、「現在の格納数」が「最大格納数」より小さい（つまり、格納数に余裕がある）こととする。
【００４３】
その結果、コンテンツ取得条件が満たされていない場合には（ステップＳ１２のＮ）、広告蓄積処理は終了される。一方、コンテンツ取得条件が満たされている場合には（ステップＳ１２のＹ）、広告蓄積部３４は、通信部３１にアクセスポイント２への無線接続を実行させ、ＩＰアドレス情報の送信等を行うことにより、配信サーバー１との通信経路を確保する。そして広告蓄積部３４は、ＧＰＳ信号に基づいた現在地の情報などを、配信サーバー１に送信し、コンテンツリストの配信を要求する（ステップＳ１３）。なお、通信経路の確保等に失敗した場合には、再試行されるようにしても良く、広告蓄積処理が終了されるようにしても構わない。
【００４４】
配信サーバー１に現在地の情報などを送信すると、配信サーバー１から、コンテンツのリスト（例えば、配信可能な各広告コンテンツのタイトル名を示す情報）が配信されるようになっている（後述する、ステップＳ５３）。そこで広告蓄積部３４は、当該リストおよびコンテンツ管理テーブルに基づいて、配信を要求すべき広告コンテンツを特定する（ステップＳ１５）。

【００４５】
より具体的には、先ず、当該リストに挙げられている広告コンテンツのうち、コンテンツ管理テーブルにおける「取得済みコンテンツ」に属していないもの（つまり、以前に取得されたことのないもの）が選出される。そして選出されたコンテンツのうち、記憶部３７への格納が許容される数（つまり、「最大格納数」から「現在の格納数」を差し引いた数）の広告コンテンツが、配信を要求すべき広告コンテンツとして特定される。また更に、配信サーバー１に当該特定された広告コンテンツを識別させるための、識別情報が作成される。
【００４６】
その後広告蓄積部３４は、配信サーバー１に当該識別情報などを送信し、当該特定された広告コンテンツの配信を要求する（ステップＳ１６）。配信サーバー１に当該要求を行うと、配信サーバー１から、当該要求に応じた広告コンテンツが配信されるようになっている（後述する、ステップＳ５４）。そこで広告蓄積部３４は、配信される広告コンテンツを逐次取得し、記憶部３７に蓄積させる。なおこのとき、取得された各広告コンテンツには、現時点で空いている「コンテンツＩＤ」が割り当てられ、更に、コンテンツ管理テーブルの内容が、適切に更新されることになる。
【００４７】
そして配信される各広告コンテンツの取得が完了すると（ステップＳ１７のＹ）、広告蓄積部３４は、配信サーバー１との通信経路を切断後（ステップＳ１８）、通信部３１にアクセスポイント２への接続を切断させる。これにより、広告蓄積処理は終了される。
【００４８】
ここで、配信サーバー１によって実行される、広告蓄積処理に関連する処理の内容について、同じく図５を参照しながら、以下に説明する。
【００４９】
配信サーバー１は、カーナビ端末３から現在地の情報を受信したか（ステップＳ５１）、および、カーナビ端末３から広告コンテンツの配信要求が有ったか（ステップＳ５２）を、常時監視する。そして現在地の情報を受信した場合には（ステップＳ５１のＹ）、配信サーバー１は、この現在地が属する地域の地域情報が付与された広告コンテンツのリストを、送信元であるカーナビ端末３に配信する（ステップＳ５３）。
【００５０】
なお当該リストについては、配信サーバー１において、受信された現在地の情報に基づいてその都度作成されるようにしても良く、各地域に対応するリストが予め（例えば、新たな広告コンテンツが配信サーバー１に登録される度に）作成または更新されるようにしても良い。また広告コンテンツの配信要求が有った場合には（ステップＳ５２のＹ）、配信サーバー１は、保有している広告コンテンツの中から、配信要求のあったもの（受信した識別情報によって識別される広告コンテンツ）を選別し、要求元であるカーナビ端末３に配信する（ステップＳ５４）。
【００５１】
次に、「起動時再生処理」のより詳細な内容について、図６に示すフローチャートを参照しながら、以下に説明する。
【００５２】
広告再生部３５は、制御部３２による起動時再生処理の実行指示がなされたら（ステップＳ１）、記憶部３７に記録されているコンテンツ管理テーブルを読込む（ステップＳ２１）。そして広告再生部３５は、コンテンツ管理テーブルを参照して、再生すべき広告コンテンツが有るか否かを判断する（ステップＳ２２）。なお、現時点で記憶部３７に蓄積されている各広告コンテンツ（再生回数が最大再生回数に達していないもの）は、全て、起動時再生処理において、一回ずつ再生すべきものとして扱われる。
【００５３】
その結果、再生すべき広告コンテンツが無い場合には（ステップＳ２２のＮ）、広告再生部３５は、デフォルトコンテンツを再生した上で（ステップＳ２３）、起動時再生処理

を終了させる。

【００５４】

一方、再生すべき広告コンテンツが有る場合には（ステップＳ２２のＹ）、広告再生部３５は、そのうちの何れか（例えば、再生回数が最小のもの）の広告コンテンツの再生（広告コンテンツに基づいた、画像や音声の出力）を実行した上で、当該広告コンテンツに係る再生回数をインクリメントする（ステップＳ２４）。なおこのとき、ユーザの指示によって広告コンテンツの再生を停止させることは、出来ないようになっている。換言すれば、広告コンテンツの再生が、強制的に実行されることになる。また、広告コンテンツに係る表示の実行時には、カーナビ処理による表示（道路案内の表示等）は停止されるようにしても良く、画面分割や重ね表示によって、双方が表示されるようにしても良い。

【００５５】

そして当該再生が完了した後、この広告コンテンツに係る再生回数が上限（つまり、「最大再生回数」）に達していれば（ステップＳ２５のＹ）、この広告コンテンツを記憶部３７から削除する（ステップＳ２６）。またこのとき、コンテンツ管理テーブルの内容も、適切に更新される。

【００５６】

また広告再生部３５は、さらに再生すべき広告コンテンツ（つまり、今回の起動時再生処理において、未だ再生されていない広告コンテンツ）が有るかを判断する（ステップＳ２７）。その結果、再生すべき広告コンテンツが無い場合には（ステップＳ２７のＮ）、起動時再生処理は終了される。

【００５７】

一方、再生すべき広告コンテンツが有る場合には（ステップＳ２７のＹ）、広告再生部３５は、そのうちの何れかの広告コンテンツの再生を開始する（ステップＳ２８）。その後、広告再生部３５は、ユーザによる再生停止の指示が有ったか（ステップＳ２９）、および、当該広告コンテンツの再生が完了したか（ステップＳ３０）を監視する。

【００５８】

その結果、再生停止の指示が有った場合には（ステップＳ２９のＹ）、広告コンテンツの再生は停止され、起動時再生処理は終了される。また広告コンテンツの再生が完了した場合には（ステップＳ３０のＹ）、当該広告コンテンツに係る再生回数がインクリメントされる（ステップＳ３１）。そしてその後、ステップＳ２５の処理が繰り返される。

【００５９】

次に、「通常再生処理」のより詳細な内容について、図７に示すフローチャートを参照しながら、以下に説明する。

【００６０】

広告再生部３５は、制御部３２による通常再生処理の実行指示がなされたら（ステップＳ５）、記憶部３７に記録されているコンテンツ管理テーブルを読込む（ステップＳ４１）。そして広告再生部３５は、コンテンツ管理テーブルを参照して、再生すべき広告コンテンツが有るかを判断する（ステップＳ４２）。なお、現時点で記憶部３７に蓄積されている各広告コンテンツ（再生回数が最大再生回数に達していないもの）は、全て、通常再生処理において、一回ずつ再生すべきものとして扱われる。

【００６１】

その結果、再生すべき広告コンテンツが無い場合には（ステップＳ４２のＮ）、通常再生処理は終了される。一方、再生すべき広告コンテンツが有る場合には（ステップＳ４２のＹ）、広告再生部３５は、そのうちの何れかの広告コンテンツの再生を開始する（ステップＳ４３）。その後、広告再生部３５は、ユーザによる再生停止の指示が有ったか（ステップＳ４４）、および、当該広告コンテンツの再生が完了したか（ステップＳ４５）を監視する。

【００６２】

その結果、再生停止の指示が有った場合には（ステップＳ４４のＹ）、広告コンテンツの再生は停止され、通常再生処理は終了される。また広告コンテンツの再生が完了した場

合には（ステップＳ４５のＹ）、当該広告コンテンツに係る再生回数がインクリメントされる（ステップＳ４６）。そして当該広告コンテンツに係る再生回数が上限（つまり、「最大再生回数」）に達していれば（ステップＳ４７のＹ）、この広告コンテンツは記憶部３７から削除される（ステップＳ４８）。このとき、コンテンツ管理テーブルの内容も、適切に更新される。その後、ステップＳ４２の処理が繰り返される。

【００６３】

カーナビ端末３は、上述した一連のコンテンツ関連処理が実行されることにより、広告コンテンツを適切に取得・蓄積し、再生することが可能となっている。

【００６４】

特に広告蓄積処理に関して、カーナビ端末３は、以前に取得したことのある広告コンテンツを識別させ得る識別情報を、配信サーバー１に送信するようになっている（ステップＳ１６等）。そして配信サーバー１は、この識別情報によって識別される広告コンテンツのみを、当該カーナビ端末３に配信するようになっている（ステップＳ５４等）。

【００６５】

これにより、カーナビ端末３によって以前に取得された広告コンテンツについては、当該カーナビ端末３によっては、再度取得されない（取得対象から除外される）ようになっている。そのため、カーナビ端末３において、同じ広告コンテンツが重複して取得されることが、未然に防止されるようになっている。

【００６６】

また、カーナビ端末３には、その現在地に対応した広告コンテンツのみが配信されるようになっている（ステップＳ５４等）。そのため、カーナビ端末３は、比較的重要度の高い（ユーザにとっての利用価値が高い）広告コンテンツのみを蓄積させることができ、広告コンテンツの格納スペースを効率よく利用することが可能となる。

【００６７】

また、配信サーバー１にカーナビ端末３の現在地を把握させるために、他の手法が用いられても構わない。例えば、配信サーバー１が、カーナビ端末３との通信において、何処のアクセスポイント２が用いられているかを判断するようにしておく。通常、各アクセスポイント２の設置位置は固定されているため、当該判断の結果をカーナビ端末３の現在地とみなすことができ、ひいては、配信サーバー１にカーナビ端末３の現在地を把握させることが可能となる。なお当該手法によれば、広告コンテンツを取得・再生する装置（電子機器）が、現在地の情報を取得しない電子機器であっても、配信サーバー１に当該現在地を把握させることが可能となる。

【００６８】

またカーナビ端末３においては、蓄積されている各広告コンテンツのうち、比較的重要度が低いと見込まれるものが、適宜自動的に削除されるようになっていても良い。一例としては、蓄積されている各広告コンテンツのうち、付随している地域情報に現在地が属していないもの（例えば、現在地が「大阪」である場合において、地域情報が「東京都」や「関東地方」等となっているもの）が、削除されるようにしても良い。

【００６９】

このような処理が、例えば所定周期、或いは、ステップＳ１１に係る処理の直前等になされることで、比較的重要度が低い（ユーザにとっての利用価値が低い）と見込まれる広告コンテンツを削除し、広告コンテンツの格納スペースを極力確保することが可能となる。

【００７０】

また広告コンテンツを再生させる処理に関して、カーナビ端末３は、起動時再生処理における１個目の広告コンテンツの再生（ステップＳ２４）については、ユーザによる再生の途中停止の指示を受付けないようになっている。これにより、広告主にとっては、広告コンテンツを確実に再生させる（ユーザに視聴してもらう）ことが可能となるために都合が良い。

【００７１】

なお、カーナビ装置３の起動時（多くの場合、車のエンジンの始動時）には、車の暖機運転（アイドリング）がなされることも多く、カーナビ処理の重要性は比較的低いと考えられる。そのため、ユーザによる再生停止の指示を受付けないようにしても、運転に支障を来たすことは殆どないと考えられる。また、ステップＳ２４の処理によって、強制的に再生される広告コンテンツの数は、必ずしも１個に限られず、複数個としても構わない。

【００７２】

一方、起動時再生処理における２個目以降の広告コンテンツの再生（ステップＳ２８～Ｓ３０）や、通常再生処理における広告コンテンツの再生（ステップＳ４３～Ｓ４５）については、適宜、ユーザによる再生の途中停止の指示を受付けるようになっている。これにより、ユーザにとっては、運転経路の確認（つまり、カーナビ処理の実行）が必要となった時などにおいて、広告コンテンツの再生を停止させることが可能となるために都合が良い。

【００７３】

また、蓄積されている各広告コンテンツは、その再生回数が最大再生回数に達すると、記憶部３７から自動的に削除される（ステップＳ２６、Ｓ４８）。そのため、同じ広告コンテンツが必要以上に繰り返し再生され、他の広告コンテンツの再生が妨げられるといった事態が回避される。また更に、比較的重要度が低い（既に十分に再生されたため、更に再生する価値は低い）と見込まれる広告コンテンツを削除し、広告コンテンツの格納スペースを極力確保することが可能となっている。

【００７４】

以上に説明した通り、コンテンツ再生システム９は、広告コンテンツを配信する、配信サーバー１と、該配信された広告コンテンツを取得して再生する、１個または複数個のカーナビ端末３（再生装置）と、を備えている。

【００７５】

そして更に、カーナビ端末３においては、以前に取得されたことのある広告コンテンツが、取得対象から除外されている。そのため、他種の広告コンテンツの取得や再生が妨害されにくくなり、広告主とユーザの双方にとって、より好ましいシステムとすることが可能となっている。

【００７６】

以上、本発明の実施形態の一例について説明したが、本発明はこの内容に限定されるものではない。本発明の実施形態としては、その主旨を逸脱しない範囲において、種々の改変を加えることが可能である。

【産業上の利用可能性】

【００７７】

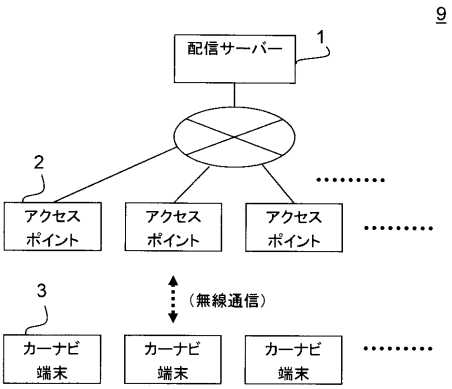
本発明は、例えばカーナビゲーション端末の分野において利用することができる。

【符号の説明】

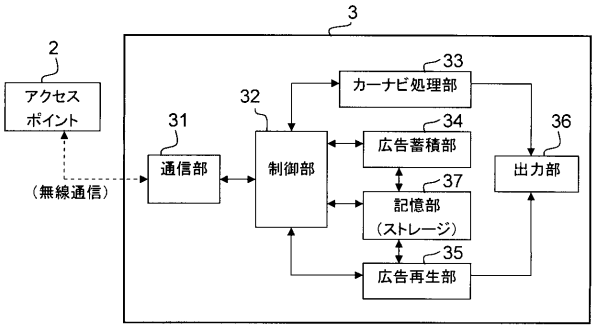
【００７８】

１　配信サーバー
２　アクセスポイント
３　カーナビゲーション端末（再生装置）
９　コンテンツ再生システム
３１　通信部
３２　制御部
３３　カーナビ処理部
３４　広告蓄積部
３５　広告再生部
３６　出力部
３７　記憶部

【図１】



【図２】



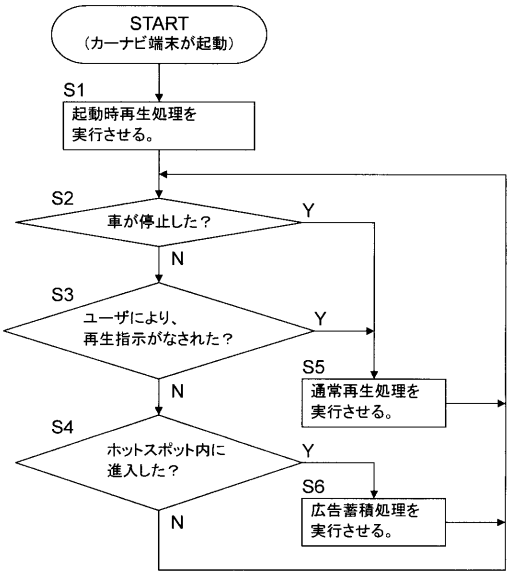
【図３】

最大格納数	10
現在の格納数	2
最大再生回数	3

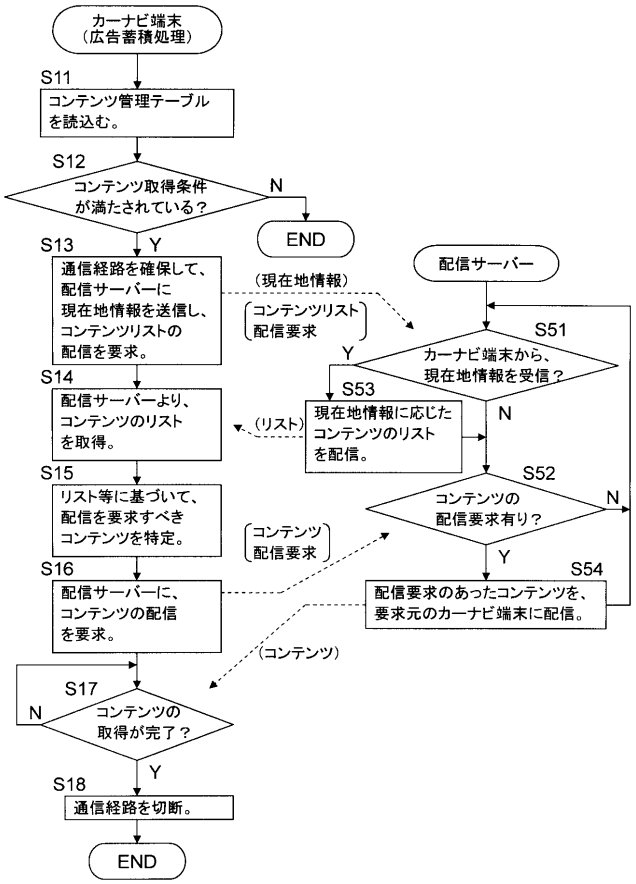
取得済み	タイトルA タイトルF ・・・・・
コンテンツ	タイトルB タイトルS ・・・・・
	タイトルC ・・・・・・・・・・・・・

コンテンツID	空きフラグ	再生回数	タイトル名	コンテンツ保存先
1	使用	2	タイトルA	・・・・・・・
2	使用	1	タイトルB	・・・・・・・
3	空き			
10	空き			

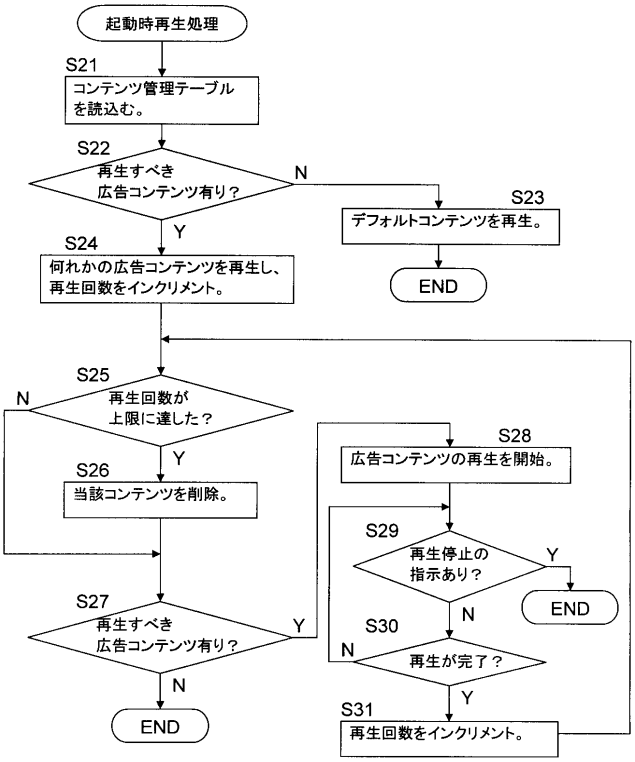
【図４】



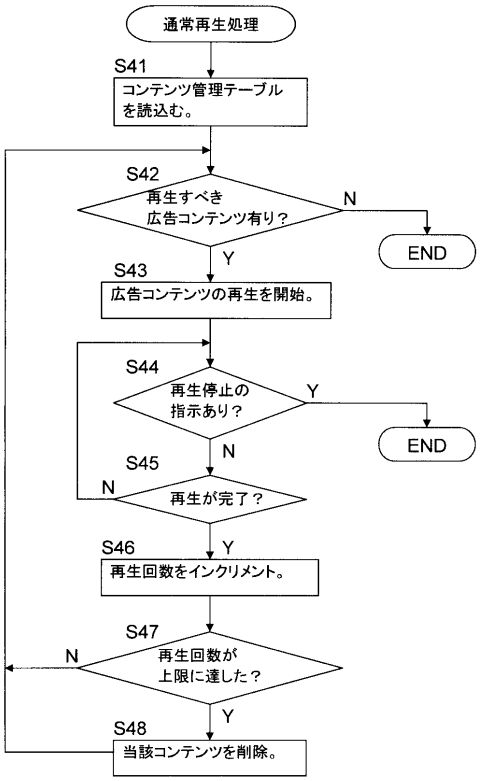
【図５】



【図６】



【図７】


通常再生処理
S41
コンテンツ管理テーブル
を読込む。
S42
再生すべき
広告コンテンツ有り？
N
END
Y
S43
広告コンテンツの再生を開始。
S44
再生停止の
指示あり？
Y
END
N
S45
N
再生が完了？
S46
Y
再生回数をインクリメント。
S47
N
再生回数が
上限に達した？
Y
S48
当該コンテンツを削除。